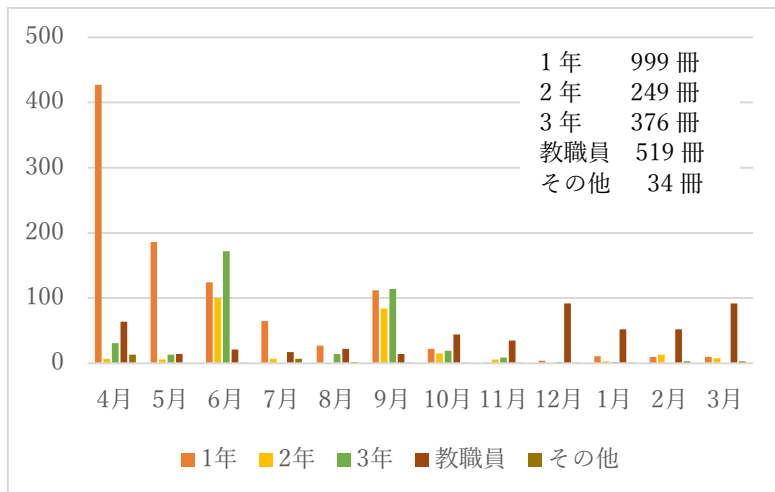


【貸出状況】 2023.4月～2024年3月 合計2,177冊



2023年貸出人気の本

デート・ア・ライブ1～7

(橘 公司 著)

業物語

(西尾 維新 著)

ラノベ古事記

(小野寺 優 著)

他 か「」く「」し「」ご「」と「

化物語、桜のような僕の恋人、

もうぬげない等

★図書館からのお知らせ★

府中東高校の図書館の本は、スマホ
(パソコン) から、検索できます！！

<http://www.lib-finder.net/finder15/>



最新の新着図書、図書館からのお知らせや
教科のブックリストなど様々なメニューが
あります。

どんどん利用してください。

図書館は夏休み期間の長期貸出

として本の貸出を1人20冊まで
2024年9月12日(木)までの
貸出を行います。

どんどん借りに来てください。

また貸出期限を過ぎている人は
至急本を返却してください！



図書委員のお薦め本

今年度は学期毎に図書館通信を作成する予定です！！



『夜行／森見 登美彦／小学館』

十年ぶりに出会った六人の男女、彼らは皆一人の女性のことを思い出していた。それは十年前、鞍馬の火祭に彼らが訪れた時、忽然と姿を消し行方不明になった長谷川のことだった。久しぶりに会った彼らはそれぞれ旅行の時に会った奇妙な体験談を話していく。それぞれの話には共通点があった。それは「夜行」という不思議な絵とその絵に描かれた女性を見たということだ。

その女性は消えた長谷川さんに似ていて・・・。

彼らが語る恐ろしく不思議な体験談。そして彼らが見た女性とはいったい誰なのか。ぜひ読んでみて欲しい。

(図書委員／土谷拓睦)

『卯月の雪のレター・レター／相沢沙呼／東京創元社』

私が紹介するのは「卯月の雪のレター・レター」です。あらすじは読書が好きなおとなしい高校生の小袖が法事で祖父のもとを訪ねた際に、従妹から「死んだ人から、手紙って来ると思う？」という奇妙な質問をされることから物語が始まります。瑞々しく繊細で柔らかなミステリの短編集となっていて、長編が苦手な方にお勧めです。

思春期の閉塞感や焦燥感の書き分けがとても上手で共感できることが多く、学生向きの作品です。

(図書委員／S・O)

『贖罪／湊かなえ／新潮社』

湊かなえの小説である『贖罪』は読者をぐいぐい引き込む力強いストーリーが特徴です。物語では主人公の内面や複雑な関係性が丁寧に描かれていて二転三転する転回で読者を惹きつけます。登場人物たちの葛藤や過去の秘密が絡み合い、読者に深い感動や考えさせられるテーマを投げかけています。また、プロットの緻密さや文章の美しさも兼ね備えていて、一気に引き込まれる読書体験を提供してくれる作品です。贖罪というテーマが作品とどのように関わってくるのかということも魅力です。

(図書委員／H・R)

『硝子の塔の殺人／知念 実希人／実業之日本社』

山奥に建てられた硝子の塔。オーナーはミステリをこよなく愛している大富豪で、この塔に6人を招待した。主人公の一条遊馬はそこに招待され癖のある他の招待客と出会う。そんな中、次々に殺人事件が起きてしまう。この事件を名探偵と自称する碧月夜と共に解決しようとしていく。この作品にはこれまでに傑作と言われたミステリのネタが盛り込まれている。ミステリが好きでよく読む人も、ミステリを読んだことがないという人も必ず楽しむことができる作品である。君たちはこの謎を、犯人の正体を解き明かすことができるだろうか。これまでのミステリとは一味違う結末が君たちを待っている。(図書委員／A・G)

『オリент急行の殺人／アガサ・クリスティ／早川書房』

私が今回紹介するのは『オリент急行殺人事件(映画タイトル)』1934年にアガサ・クリスティによって書かれた名作『オリент急行の殺人』を新訳したもので、多少の改変がありながらも、1974年や2017年に映画化されています。物語の舞台は真冬の欧州を走る豪華列車内「オリент急行」。そこには名探偵エルキュール・ポアロの他に国籍も身分も様々な客が乗り込んでいました。奇妙な雰囲気包まれたその車内で、いわくありげな老富豪が無残な刺殺体で発見されます。ポアロは調査に乗り出しますが、乗客全員には完璧なアリバイが…。ミステリーの魅力が詰まった永遠の名作をぜひお読みください。

(図書委員／岡野 明人)

『精霊の守り人／上橋 菜穂子／偕成社』

女ながら、腕の立つ用心棒であるバルサは、偶然新ヨゴ皇国第二皇子チャグムを助けたことをきっかけに二の妃から息子の護衛を頼まれてしまう。精霊の卵をその身に宿した息子を疎ましく思った父帝の放った刺客や異界の魔物からチャグムを守るためにバルサは体を張って戦い続ける。

(図書委員／M)

『容疑者Xの献身／東野圭吾／文藝春秋』

天才数学者でありながら毎日味気ない日々を過ごしていた高校教師の石神は、一人娘と暮らしている隣人の靖子に密かに思いを寄せていた。彼女の前夫を殺害したことを知ってしまった彼は2人を救うために完全犯罪を企てる。しかし、皮肉なことに石神のかつてのライバルであり親友の物理学者・湯川学がその謎に挑むことになる。何度読んでも面白い作品です。ぜひ読んでみて下さい。

(図書委員／R・W)